

秋号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195

緑化フェア みどりの教室

日時:平成30年10月7日(日)

- ①10:00~11:00
- ②11:15~12:15
- ③13:00~14:00
- ④14:15~15:15

場所:郡山カルチャーパーク レストラン前

定員:各回10名(40名)

内容:エコ教室(テラリウムづくり)

緑の相談(庭木、ガーデニングのQ&A)

※受講料無料、各回30分前から受付します。

【みどり講習会】

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付者及び希望者

①日時:平成30年10月21日(日)10:00~12:00

内容:落葉樹の剪定と管理

②日時:平成30年11月18日(日)10:00~12:00

内容:土壌改良について

③日時:平成31年3月3日(日)10:00~12:00

内容:樹木の植替えについて

※受講料無料、参加自由です。

お気軽にお越しください。

My ガーデニング

・・・季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

今年の夏は高温と少雨に見舞われ、現在は秋雨前線が活発で雨が多く、それに耐えて植物は生きています。一般的に植物は萎れるほど、乾燥してはダメですが、いつも湿っている過湿の状態でもいけません。根腐れとは、根に新鮮な酸素が届かず窒息している状態です。それを防ぐためには通気性、通水性、保水性を併せ持った土壌が良い土壌といえます。赤玉土に腐葉土やパーライトを混ぜ込んだ土にすると成長が違います。そして、水やりの効果も高くなります。秋に植え込んだ場合は、冬の間も乾燥が続く時には、水やりは必要です。表土には腐葉土を敷いて乾燥を抑えます。乾燥の害から植物を守り育てるには遠く深くに根を伸ばす事が大事です。露地植えした場合には水やりが必要ないと思っている人が多くいますが、肥料がなくても植物は枯れませんが水分は絶対に必要です。

【植替え】

多くの樹木に共通している良い土壌は、赤玉土6~7割、腐葉土3~7割が基本用土です。土壌は透水性、通気性、保水性、保肥力などが大切です。市内で多く利用される山砂は、決して良好な土壌ではありません。これからの季節は、落葉樹の植替えの適期になります。特にカエデ類は、年内に済ませます。9月のみどり講習会で講義したボタン、シャクヤクは早めに行います。常緑広葉樹は寒さが近づきますので、できれば来春まで待ちます。花が咲いていたキンモクセイを園芸売り場で見かけましたが、適期は今ではありません。マツ類などの常緑針葉樹は、霜が数回おりて寒くなってからの方が無難です。ただし、適期は春先です。麻の布と縄で根巻している樹木はそれを外さずに植え込みます。また、風で樹木が動かないように支柱を設置します。

【肥料】

多くの樹木は、この時期に施しません。ただし、秋に収穫したカキやクリにはお礼肥えとしてあげます。これからは温度が下がり、植物も吸収するのが少なくなります。また、いつまでも吸収して育っていると寒さに対しての抵抗力がおちます。肥料は来春早くに寒肥としてあげるのがベストです。秋植えの草花は元肥としてあげます。

【病害虫】

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。その為には落ち葉は綺麗に掃き集め、処分します。落ち葉が病原菌の繁殖場所になり、害虫の越冬場所になるからです。

（カイガラムシ類）

落葉後は、カイガラムシがついているのが見えやすくなります。カイガラムシの退治方法は、ブラシなどでこすり落とします。また、冬期にはマシン油乳剤が使用できます。この薬剤は油の膜で窒息させて退治します。使いやすいスプレータイプもあります。

（穿孔性害虫）

樹皮の中に侵入して甚大な被害が発生します。そして、退治しにくい害虫です。フラス（侵入穴から出ている木屑）を見つけた場合は、その侵入口をきれいにして薬剤を注入します。そしてその穴を塞いでおきます。

（マツカレハ）

マツ類などの針葉樹には、葉を食べるケムシがついています。夏に孵化した幼虫が樹皮や混み合っている枝で越冬します。すでに2センチ程に成長しています。この時期に退治すると来春の食害が防げ、その後の発生も抑えられます。薬剤散布が一般的です。寒さが来る前にマツの幹にコモを巻いて誘因するのはこの害虫を退治する為です。しかし効果は限定的です。

（イラガ類など）

卵のような殻に包まれて越冬します。見つけ次第取り除くと来年の発生を少なくする事ができます。マイマイガなども卵塊を取り除きます。

（室内に取り込む植物）

鉢底にはナメクジや病害虫がついていたりします。取り込む前に、良く見て退治しておきます。それでも室内に取り込んだ後に、病害虫が発生する場合があります。

（病気）

病気の発生した枝葉を放置すると、病原菌がそこで増殖し、また発生します。処分後に殺菌剤を散布して予防することをお勧めします。

【剪定】

常緑広葉樹の剪定は、寒さに向っていきますので、徒長枝を切る程度の弱い剪定に留めます。また、キャラボクやヒバ類なども同じです。書籍等にキンモクセイは花後に剪定をすると記載してある場合がありますが、東北では、あてはまりません。来春まで待ちます。

落葉樹は、落葉後からが適期となります。ただし、カエデ類はなるべく早めに済ませます。遅くなると切り口から樹液があふれ出て、樹勢が弱くなります。落葉樹は、これからの時期は太い枝を切る事も可能ですが、切り過ぎて樹勢が弱まったり、樹形が乱れては、剪定の意味がありません。また、切り口は癒合剤などで保護します。

マツ類は、これからは混み過ぎた枝を整理し、古葉を落して、すっきりさせて、雪の害から守ります。ただし、枝を途中で切り詰めては、いけません。

【冬越し】

寒さが苦手な植物は、室内に取り込みます。しかし、庭植えの場合は、そうはいきません。その時に利用できるのが、野菜などに使用するベタ掛けシートです。これを巻いておくだけで、寒風を防ぐことが可能です。そして、根元を腐葉土でマルチングしておきます。

【種まき】

ナツツバキやヤマボウシなどは、実生で簡単に殖やす事が可能です。この時期に種を拾い集めて蒔けば、来春には芽が出てきます。ただし、ナツツバキの種は、乾燥すると再来年に発芽します。